



人と環境の三木北高新聞



新学期の準備を始めよう

2020年2月26日、新型コロナウイルス対策で安倍総理から休校要請が出され、突然学校教育の機会が奪われてしまいました。みなさんは休校の期間を何もせず漠然と過ごしていませんか。

新型コロナウイルス感染拡大はやがて収束し、日常生活が戻ってきます。学校が再開したとき、休校の期間があったからといって、学ぶべき内容を減らしたり、就職試験や入試の時期を猶予したりしていただくことはありません。ですから、休校中にこの一年間の復習と春休みの課題を完璧にやっておきましょう。また、毎日目標値を決めて計画的に筋トレをしたりランニングをしたりして、体を鍛え、体力をつけておきましょう。1か月何の運動もしなかった人と、毎日鍛えていた人とでは大きな差が出ます。不測の事態に直面した時、落ち着いて、やるべきことをやっておくかどうかで、その後が大きく変わってきます。今は静かに基礎を固めておく我慢の時期です。元気なみなさんと当たり前のように毎日学校で会えることを楽しみにしています。



2020. 2. 28第35回卒業式

保護者、14名のご来賓、在校生が見守る中、第35回生151名が巣立ちました。卒業生の健康と幸運と、ご活躍を心より願っています。



2020. 1. 14~17沖縄・石垣島修学旅行

2年生は沖縄・石垣島に修学旅行に行ってきました。1日目民泊、2日目マングローブ自然環境保護学習・カヌー体験、3日目選択体験プログラム、4日目那覇市内自主研修。

地元の方々とふれあい、大自然の中でいろいろな体験活動を行い、友達との思い出もたくさん作った、実り多い修学旅行になりました。

先生のリレー連載第11回 地歴公民科 加納達也 「親と子」

高校生の頃は色んなことで親と言ひ合いになりますよね。私自身も20年前、しょっちゅう母親と口喧嘩したものです。ある時めっちゃ腹が立って母親に「俺の人生やねんからオカンがいちいち口出しするなや!!」って偉そうに言って泣かれたことがありました。でも「母は強し」とはよく言ったものです。そんな偉そうに吠える私に母の渾身の一撃。

『アンタの人生に口出しするのはアンタを産んだ人間の特権や!!』何も言い返せませんでした(笑)心の底からそうだよねって納得したのを今でもよく覚えています。「勉強しなさい!!」って言われる度に「そんなん言われんでもそれなりにやるからいちいち言うなや!!」って言ってた17歳の男子高生が20年後、高校教師になって自分の娘らに「アンタらゲームばかりせんとちゃんと勉強しなさい!!」って日課のように言っている今日この頃…(笑)皆さんも近い将来社会人になって運命の人と結ばれて子どもが生まれて親になる方が多いと思いますが、想像以上に子どもって親の言うことを聞いてはくれませんよ。それでも子どものために必死になるのが親ってものです。できが良からうが悪からうが可愛いものなんです。私自身できが悪く、親に心配ばかりかけてきた愚息でしたが、この歳になって今まで親に偉そうに言ってきたことを本当に悔いています。親孝行らしいことも何もできていませんが、母親からは「可愛い孫娘二人で十分やで」と。だから元気なうちに母親が昔からずっと言い続けている「死ぬまでに一度でいいからポルトガルに行ってみたい」という希望をそろそろ叶えてあげたいと思っています。

※飛行機は怖いから船じゃないと嫌だ!!と言う母。船は飛行機の3倍の料金がかかるので飛行機にしてくれと説得している息子。二人の結末はいかに…(笑)

受験のミカタ ユスネコ参上 第10回「春休みは長い」



世界で最も聡明にして優雅な猫族の一員である、私ユスネコが、勉強のこつを教えてあげるコーナー。今年は新型コロナウイルス感染防止で休校が続いているが、諸君は通常春休みと夏休みはどちらが長いと思っているかにかや?夏休みは6週間、春休みは2週間だから夏休みに決まっていると思った諸君、実に考えが浅いにか。

休校でなかったとしても学年末考査後の2月28日からは、行事や高校入試で、通常授業がない。そしてその状態が4月12日まで続く。ここまでで約6週間。しかもその後すぐゴールデンウィークがあって約2ヶ月となる。ちょこちょこ学校に行ってるし休みとは言えないと思った愚かな人間諸君。ならば夏休みだって、7月は全員補習、後期希望者補習があって、午前中、学校に行く状況は同じだにか。だから、実際春休みは夏休みより長いといえるのだ。

よって、春休みを制するものは受験を制すると言われるくらい、春休みの過ごし方は大切になってくる。宿題も夏休みほど出ないし、授業もない。この時期にこそ1年間の復習をするのだ。諸君は各教科からの宿題で今年のセンター試験をやってみたはずだから、大学入学共通テストのほとんどは1年の範囲から出ることを知っておるにか。

宿題が少ない春休みに自分のペースで計画を立て、1年間の復習をしておけば、受験勉強にもなるし、新学年でいいスタートが切れる。しかも、勉強をせずに過ごしている人が多いから差をつけることもできるにか。今年は特に休校で、外にも出られず退屈な日々を過ごしていると思うが、こんな時こそしっかりと復習をして、来るべき新学期にそなえるのだぞ。

2020. 1. 19三木鬼追い式

三木市本町の月輪寺で御祈祷を受けた鬼たちが大宮八幡宮に参拝、御神火を松明に移して人々の安寧を祈願し踊ります。本校野球部員がボランティアとして参加し、1年池田昂騎、藤田響君は鬼に扮して踊りを奉納しました



3 学期終業式式辞

インフォデミック（情報の感染爆発）＞パンデミック

校長 吉田尚美

2020年3月11日WHO(世界保健機関)は新型コロナウイルスをパンデミック(世界的な大流行)とみなせると表明しました。しかし、WHOはこれよりも前に、新コロナウイルスによるインフォデミック(情報の感染爆発)について警鐘を鳴らしていました。なぜならパンデミックより恐ろしいのは、インフォデミックだからです。

インフォデミックの恐ろしさは、歴史の中で繰り返されています。14世紀ヨーロッパでペストが大流行し7,500万人が亡くなりました。ペストはネズミが運ぶノミやシラミが原因と言われますが、当時の人々は原因がわからずパニックになっていました。比較的衛生的な生活をしていたユダヤ人は、ペストにかかる人が少なかったこともあり「ペストはユダヤ人が井戸に投げ込んだ毒が原因だ」というデマが広がり、人々の間でデマは爆発的に広がり、ヨーロッパ中でユダヤ人の虐殺や家の焼き討ちが行われました。

1923年9月1日、10万5千人の死者、行方不明者を出した関東大震災直後、人々はパニックになっていました。そんな時「朝鮮人が火をつけ、暴動を起こそうとしている」「朝鮮人が井戸に毒を投げ込んだ」というデマが広がり、人々は朝鮮人や中国人を虐殺しました。

インフォデミックは危機的状況の中で起こります。パニックになって冷静さを失っている人々に、わかりやすい陰謀論を吹き込み、憎悪の標的を作り出します。そうして、平時なら考えられないような非人道的な行為に人々を駆り立てます。

現在新型コロナウイルスの感染が拡大し、世界は危機的状況にあります。インフォデミックに陥らないように、今こそ私たちは冷静になるべきです。直感や誰かの意見に無批判に従うのではなく、科学的な根拠を踏まえて自分の頭で考えましょう。自分だけよければいいのではなく、世界中の人々が幸せになれるように考えましょう。

今学校は休校で、教職員は毎日みなさんと共にいることはできません。けれども、心配なことや悩みがあればすぐに連絡してください。

やがて普通に学校生活が送れる日が帰ってきます。その日まで「人と環境の三木北」高生として、「人と環境」を基本に正しく世の中の状況を把握し、自分の頭で考え、危機的状況を乗り切ってくれることを信じています。

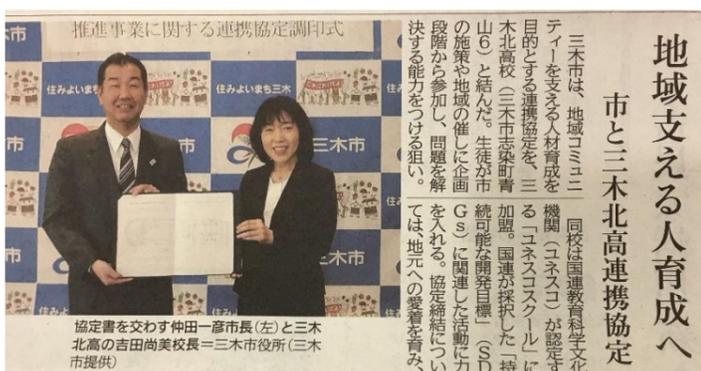
二樹より、F氏に寄せる

教頭 柴崎茂昭

三木北高校の校門を入ると、正面に校舎を背景にして羅漢楨のいいのがある。高さは4メートル程度であろうか、文人仕立てで、枝ぶりは稍品を作ったような雰囲気である。葉の出ようも緻密でなかなかよく手入れが行き届いている。40年足らずの校舎の佇まいからすると随分古典的な樹木である。足元にどこかの溪流から上げられたに違いない一石とこじんまりとしたヒラドツツジを従えている。考えようによれば文人仕立てといい、石といい、思案を凝らす学びの場にふさわしいのか。とにかく羅漢らしい一木ではある。

左に目を転じれば、細長い築山の中ほどに黒松の秀でたのがある。一時は手がゆき届かなかったのか、細かく見ると枝のつけ方に放置された期間があることを推測させる。概して松は庭木にした場合、面倒なところがある。断崖に臨んだそれこそ峩々とした絶壁にも生息する。陽光を受け、まわりに気兼ねすることなく、風雪にも耐え踏ん張る姿を想像もし、期待する。ただし人工の場で、風雪にさらされた時の流れを再現するのはなかなかし難いものがある。植木屋によれば、流麗な枝葉づくりを好むものもいれば、頑丈一点張りの姿を作ろうとする者もいる。なによりその一木一木の持って生まれた性質、遺伝子というやつが他に優先するわけでいかに良いところに植えたとして決して意のままに枝葉をつけたりするわけではない。針葉樹の常としてひとたび切り落とした枝葉再現できない。ここが他の雑木とは異なった難しさである。

話を戻す。この高木、地上5メートルになんなんとするが、葉は長めである。普通なら気になるところであるが、大ぶりの木の場合はそれほど気にならない。この一樹の場合がそうであろう、やや透かし気味に手の入れられたその姿に接するとき、私はそこに寄せられた丹精のほどを思う。それと同時にその人の誠実さが、その一本の黒松の立ち姿に映し出されていると感ずるのである。ゆえに、この校門をくぐる機会がある諸氏は、ぜひ一度は首をめぐらして眺めてみてほしい。そしてこの松の生きてきたところを観じてもらいたい。



2020. 2. 20 三木市と「地域との協働による高等学校教育改革推進事業に関する連携協定」締結

三木市と地域課題の解決等を通じた学習カリキュラムを構築し、共同で研究することを目的に連携協定を結びました。この協定で、例えば地域商品開発、空き家、地質、水質等の調査、防災、国際交流などを三木市の様々な部署と連携して行うことができますようになりました。また、三木市の公共施設でのボランティアに参加しやすくなります。この連携を授業、研究、ボランティアなどで大いに活用し、体験研究活動を充実させていきたいと思います。